

# 一般的な補修方法 1 一般的なクラックの補修

サイディングのクラックが確認された場合には、下記の補修方法に従って補修してください。

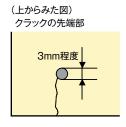
手 順	主な作業内容 概略図
●∨溝の加工	<ul> <li>カッターナイフ等で斜めにカットしてV溝に加工します。</li> <li>V溝の幅:3~7mm程度</li> <li>V溝の深さ:3~7mm程度</li> <li>※注 必要に応じてクラック先端に貫通孔をあけます。 (下図参照)</li> </ul>
<b>2</b> V溝の清掃	● ナイロンブラシ等でV溝のカット面を掃除します。 ※必要に応じてマスキングテープで養生します。
・ 専用プライマー  塗布	●専用プライマーをV溝のカット面に刷毛で 充分塗布します。
④パテ*の充てんと 表面仕上げ	● V溝(先端の孔含む)にパテを隙間なく充てんし、 へラ等を用いて表面柄にそって補修整形します。 ※パテがはみ出した場合にはきれいに除去します。 ※マスキングテーブを張った場合は、ゆっくりと取り除きます。
<ul><li>補修塗料による タッチアップ</li></ul>	<ul> <li>パテの指触乾燥(目安として20℃で40分程度)後、 補修塗料を刷毛等でパテ表面をタッチアップ補修 します。</li> <li>※補修塗料の種類によりプライマー処理が必要な場合があります。</li> </ul>

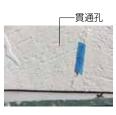
### \*注

●ひび割れの先端を見つけます。

**クラック先端部の 孔あけ** (クラック伸長防止)

- ②先端部にφ3mm程度の貫通孔をドリルであけます。
- ❸上記の補修手順でクラック部を補修します。





- ※[パテ材] 純正品やオートンアドハー3500等サイディングメーカーの指定するパテ
- 注:パテ材と使用する補修塗料との相性については、NYG協会会員各社(各サイディングメーカー)にお問い合わせください。
- ●上記は一般的な方法であり、実際には物件の状況に応じた補修を行う場合もあります。



・イディングに使用されているシーリングはの一般的な対像手順け下記の通りです

サイディングに使用されているシーリング材の一般的な補修手順は下記の通りです。			
手 順	主な作業内容	概略図	
<ul><li>●施工前の 天候確認</li></ul>	<ul> <li>シーリング工事は晴天の日に行います。</li> <li>前日が雨や雪の場合は、接着面が充分に乾燥している状態を確認の上、施工を行います。</li> <li>下記の条件下では、接着不良や発泡などの不具合が発生する恐れがありますので、施工しないでください。</li> <li>①外気温5℃以下、または被着面が50℃以上の場合</li> <li>②降雪や降雨が予想される場合</li> <li>③目地部や被着面がぬれている場合</li> </ul>		
②不具合部 シーリング材 の除去・ 目地部の清掃	<ul> <li>カッターナイフ等でサイディング小口面に付着しているシーリング材及びプライマーを除去します。</li> <li>目地部のゴミ、油分、水分などを刷毛や布等で除去します。</li> <li>※接着面のゴミ、油分、水分が残っているとシーリング材の接着不良に繋がり、はく離の原因となります。</li> </ul>		
③三面接着 防止処理・ マスキング テープ張り	<ul> <li>目地部の状況を確認し、必要に応じボンドブレーカーまたはバックアップ材を充てんします。</li> <li>※バックアップ材を充てんする場合は、シーリング厚みを十分確保してください。</li> <li>サイディング端部まで、柄の凹凸に沿ってマスキングテープを張ります。</li> <li>※マスキングテープは外壁材の塗装仕様に合わせ、適切なものを選定してください。</li> </ul>		
<b>4</b> プライマー 塗布	<ul> <li>専用プライマーを塗り残しや塗りムラ、塗り不足がないよう入念に塗布します。</li> <li>塗布後、30分以上6時間以内でシーリング材を充てんします。</li> <li>※サイディング表面や床面にこぼさないように注意してください。</li> <li>※接着面以外にプライマーが付着しないよう注意してください。時間が経過してしまった場合やプライマー塗布後、プライマー塗布面にほこり、ゴミ、雨水等が付着した場合はプライマーを再度、塗布してください。</li> </ul>		
⑤シーリング材の 充てん・ ヘラ押さえ	<ul><li>目地幅に合わせたノズルで気泡や打残しがないよう、すき間なく 目地の隅々まで盛り上げるようにシーリング材を充てんします。</li><li>ヘラなどを使い、シーリング材を押し込むようにしてサイディング表面柄に合わせ平滑に仕上げます。</li></ul>		
<b>⑤</b> マスキング テープの はがし	<ul><li>シーリング材が硬化しない間に、マスキングテープをはがします。</li></ul>		
<b>7</b> 仕上がりの チェック	<ul><li>●清掃作業終了後、目視にてシーリング材の打ち残し、表面の 凹凸、気泡などの仕上り状態をチェックします。</li><li>※再塗装工事がある場合は、養生日数を確保してください。</li></ul>		





サイディングの反りやあばれなどの補修方法として、ねじの増し打ちによる方法があります。

※増し打ちで補修しきれない場合は、張り替えなどをご検討ください。下地の変形などの影響を受けている可能性もあります。		
手 順	主な作業内容	概略図
●事前調査	<ul><li>サイディング基材の反り、あばれの状況を確認します。</li><li>①反り・あばれの位置はどこか(部分的か全体的か)</li><li>②くぎの打ち忘れや浮きが無いか</li><li>③段差や浮きがどの程度か</li><li>④浮き部分を押してみてどの程度動くか</li></ul>	
❷先孔加工	<ul> <li>●増し打ちする位置を決め、ドリルで先孔をあけます。</li> <li>◆先孔径: 皿頭ステンレスねじ使用時=(ねじ径+1.5mm)程度</li> <li>●ねじ頭パテ処理用の座ぐりをします。</li> <li>※増し打ちする位置は下地のある位置とし、規定の端打ち寸法を確保してください。</li> <li>P.8 注1 ねじの位置決めについて参照</li> </ul>	0
❸増し打ち	<ul> <li>皿頭ステンレスねじを打ち込みます。</li> <li>金具留め施工の場合は、打ち込みを加減し、サイディングが沈み込まないように調整しながら行います。</li> <li>くぎ(ねじ)の打ち忘れがある場合は、所定の位置にねじを打ちます。</li> <li>※金具留め施工の場合は、サイディング裏面に空間があいた状態となっていますので、ねじを打ち込みすぎるとサイディングが沈み、割れ等の破損につながる可能性があります。</li> </ul>	。
<b>④</b> 打ち締め 打ち直し	<ul><li>●もとのくぎ(ねじ)が浮いている場合は、打ち締めまたは 新しいねじで打ち直します。</li></ul>	
⑤パテ埋めと 補修塗料による タッチアップ	<ul><li>●必要に応じてパテ埋め後、ねじ頭に補修塗料でタッチアップします。</li><li>P.8 注2 パテ埋めとタッチアップ補修について参照</li></ul>	

●上記は一般的な方法であり、実際には物件の状況に応じた補修を行う場合もあります。



### 注1 ねじの位置決めについて

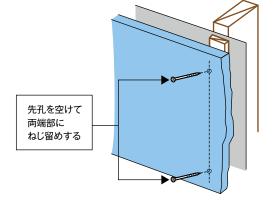
ねじの留め付け位置は、胴縁等下地があることを確認し、サイディングの柄や溝の位置等を考慮して決めてください。 長手方向の位置は、原則として両端部及び中央部の3ヶ所となりますが、反りの状況により決めてください。

#### 1 凸反りの場合・・・・・幅方向のほぼ中央 1ヶ所

2 凹反りの場合……幅方向の端部 2ヶ所

#### 凹反りの場合のねじ留め位置





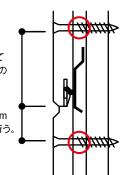
- ●ねじの径よりもわずかに大きめ(ねじ径+1.5mm程度)の先孔をドリル等によりあける。
- ねじ頭パテ処理用の座ぐりを行う。

#### 金具留めの場合の注意点



上側は金具の位置を避けて 端部から60~70mm程度の 位置にねじ留めを行う

下側は端部から40~50mm 程度の位置にねじ留めを行う。



左図のようにスペーサーが無い状態での留め付けになりますので、インパクトドライバーの締め過ぎには充分に注意してください。 ステンレスねじ長さ50mm以上を使用し、必ず先孔を空けてください。

# 注2 パテ埋めとタッチアップ補修について

#### 1 座ぐり部のパテ埋め

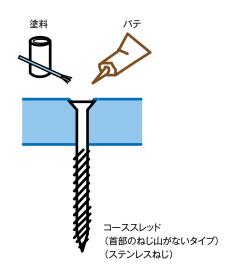
サイディングメーカーの指定するパテ(純正品やオートンアドハー3500等)を使用し、できるだけ目立ちにくいよう、パテは小さめに充てんする。

#### 2 パテ乾燥

パテの仕様書が定める乾燥時間を守り、パテ表面を硬化させる。

#### 3 タッチアップ

サイディングメーカーの指定する専用の補修塗料を使用し、できるだけ 小さめにタッチアップする。



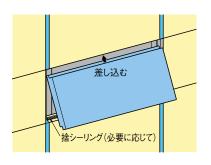


破損などにより、サイディングを部分的に張り替える際の一般的な作業手順は下記の通りです。

#### 1 くぎ留め工法の場合

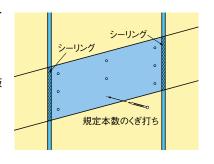
C BOLIAVI WILL		
手 順	主な作業内容	概略図
<ul><li>●シーリング・ くぎの除去</li></ul>	<ul><li>張り替える部分のシーリングをカッターナイフ等で除去します。</li><li>張り替えるサイディングのくぎを抜きます。</li></ul>	シーリングを 除去 張り替えるサイディング 除去 くぎを抜く シーリングを 除去
❷取り外し	<ul><li>サイディングを取り外します。</li><li>下段のサイディングを傷つけないように当て木を用い、平バールなどでサイディングを浮かしてから取り外します。</li></ul>	

- ●下段のサイディング合いじゃくり部の防水シールが外れた場合には、捨シーリングをします。
- ●交換用のサイディングを合いじゃくり受け部から差し込んで押さえつけ、目地幅を所定の間隔に合わせます。
- ※交換用のサイディングが差し込みにくい場合には、上段のサイディングのくぎを少しゆるめて浮かせてください。



#### ❸取り付け

- ●商品毎の規定本数のくぎを、端打ち寸法を確保して 留め付けます。
- ●くぎ頭は目立つところのみ補修塗料を塗布します。
- ※なお、現地塗装後に破損したものを張り替える場合は、無塗装板 の塗装仕様に従って塗装してください。
- ●除去した目地部にシーリングをします。
- ※シーリングは既存のものと同じ種類を使います。



●上記は一般的な方法であり、実際には物件の状況に応じた補修を行う場合もあります。



## 2 金具留め工法の場合

手順	主な作業内容	概略図
●シーリングの 除去・取り外し	<ul> <li>張り替える部分のシーリングをカッターナイフ等で除去します(①)。</li> <li>張り替えるサイディングの中央部を電動ノコなどで切断し(②)、取り外します(③)。</li> <li>※周囲のサイディングを傷つけないよう注意してください。</li> </ul>	張り替えるリイティング
②サイディングの 加工	<ul> <li>         ●交換用のサイディングは図のAの部分を切断します(既存の金具にあたり、交換用のサイディングの取り付けができないため)。または、留付金具のつめ(あたる部分)を切断します。     </li> </ul>	
<b>③</b> 取り付け	<ul> <li>合いじゃくり部の防水シールがない部分には、シーリングをします。</li> <li>くぎ打ち位置に合わせて、金具厚さに応じたスペーサーを下地に取り付けます。</li> <li>交換品のサイディングを合いじゃくり受け部から差し込んで押さえつけ、目地幅を所定の間隔に合わせます。</li> </ul>	えペーサー 差し込む 捨シーリング(必要に応じて)
	<ul> <li>商品毎の規定本数のくぎを、端打ち寸法を確保して留め付けます。</li> <li>くぎ頭は目立つところのみ補修塗料を塗布します。</li> <li>除去した目地部にシーリングをします。</li> <li>※シーリングは既存のものと同じ種類を使います。</li> </ul>	シーリング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・





# 般的な補修方法 5 一般的なサイディングの塗り替え

手 順	主な作業内容	概略図
●事前調査	<ul> <li>サイディング塗装面の劣化状況を確認します。</li> <li>⇒ 塗膜のクラック、剥離、チョーキング等がないか。</li> <li>基材露出等がないか。</li> <li>サイディング基材の劣化状況を確認します。</li> <li>→ クラックや反り、うねり等がないか。</li> <li>シーリングの劣化状況を確認します。</li> <li>→ 打ち替え、補修の必要がないか。</li> </ul>	
②塗料選定	<ul><li> ● 塗膜の劣化状況により、塗装仕様や塗料を選定します。</li><li> ● 選定した塗料の具体的な塗装仕様を確認します。</li></ul>	塗料
<b>③</b> 素地調整	<ul> <li>元の塗膜のチョーキング、浮きや汚れなどを高圧水洗やサンドペーパー、ワイヤーブラシ、ヘラ、ウエス等で取り除きます。</li> <li>塗装面を十分に乾燥させます。</li> <li>事前調査をおとに、必要に応じてサイディング基材の</li> </ul>	

- 事前調査をもとに、必要に応じてサイディング基材の 亀裂(クラック)や反り、あばれ等の箇所を、 パテの充てんや増し打ちなどで補修します。
- 事前調査をもとに、必要に応じてシーリング劣化部分の 補修を行います。



#### 4 塗装工事

- ●選定した塗料の塗装仕様に従って塗装を行います。
- ※塗装仕様や注意事項などについては、選定塗料の塗料メーカーに ご確認ください。

注意事項には、温度や湿度など、塗装環境に関する事項もありますので 必ず事前にご確認ください。



#### 6検査·完成

● 塗装完了後、仕上がり状態をチェックし、 塗りムラや塗り残し等があれば、 必要に応じて塗り重ね等を行います。



●上記は一般的な方法であり、実際には物件の状況に応じた補修を行う場合もあります。